



鳥取県におけるオオチドリ *Charadrius veredus* の初記録

市原晨太郎^{1,*}・桐原佳介²

1. 〒 689-1111 鳥取県鳥取市若葉台北 1-1-1 公立鳥取環境大学

2. 〒 683-0855 鳥取県米子市彦名新田 665 米子水鳥公園 公益財団法人中海水鳥国際交流基金財団

はじめに

オオチドリ *Charadrius veredus* は、中央シベリアからモンゴル、中国北部で繁殖し、スンダ列島からオーストラリアで越冬する大型のチドリ類である (IOC World Bird List (online); The eBird/Clements checklist of birds of the world (online)). 日本国内においては、数少ない旅鳥として主に先島諸島を通過する (真木ら 2014). それ以外の地域でも、迷鳥として各地で記録がある (日本鳥学会 2012) が、鳥取県内での記録はこれまでにない (日本野鳥の会鳥取県支部 2014). この度、1) 鳥取市および 2) 米子市で本種が観察され、鳥取県における初記録と考えられたため報告する。

観察記録

1)

2022 年 3 月 28 日午前 7 時頃、鳥取県鳥取市浜坂の千代川河口右岸 (35° 32'28.4"N 134° 12'02.8"E 付近) の砂浜海岸で当該 2 個体を第一著者が発見した。その後、翌 3 月 29 日にも発見場所周辺で発見者により 2 個体が観察されたが、3 月 30 日と 4 月 1 日には 1 個体のみが小西広視氏によって観察された。4 月 1 日には散歩中の犬に驚いて西へ飛び立ち、そのまま見えなくなる距離まで飛び去り、これが最終確認となった。滞在期間中は、頭部や胸の生殖羽への換羽状況により同一個体と判断できた。

2023 年 2 月 19 日 受理

キーワード：鳥取県, オオチドリ, *Charadrius veredus*

*: sichihara512@gmail.com

観察されたのは、千代川河口から塩見川河口まで、東西 7.5 km に及ぶ砂浜海岸の一部である。海岸線から内陸へ 70 ~ 100 m ほど砂浜が広がり、そこから内陸にかけてコウボウムギ *Carex kobomugi*, ハマヒルガオ *Calystegia soldanella* などの草原, クロマツ *Pinus thunbergii*, ハリエンジュ *Robinia pseudoacacia* などの疎林が順に続く海岸砂丘が形成されていた。なお、植物の学名は Y-list に準拠した (<<http://ylist.info/>>, 参照 2022-9-14)。

当該 2 個体の形態は、多少の差異はあったが、基本的には同じ特徴を示していた (図 1)。体サイズは同時に観察されたシロチドリ *Charadrius alexandrinus* およびハマシギ *Calidris alpina* より一回り大きかった (図 2)。シロチドリよりも胴体に対して頭が小さく、首と脚の長いすらりとした体形だった。頭部はバフ色で頭頂は灰褐色だった。眉斑は不明瞭で目の直径よりも細く、バフ色で目の後方で途切れていた。背面では上背と頭頂の灰褐色は繋がっていなかった (図 1)。上背から肩羽, 小雨覆, 中雨覆, 大雨覆, 三列風切は灰褐色でバフ色がかった羽縁があった。静止時の初列風切は黒く見え、その先端は尾羽よりも突出していた (図 1)。胸に赤褐色からバフ色の太い帯があり、その腹側にはより細い黒色の帯があった。赤褐色は腹側ほど鮮やかだった。腹部は白色だった (図 1)。嘴は頭長よりも少し短く直線的で先端は尖り、

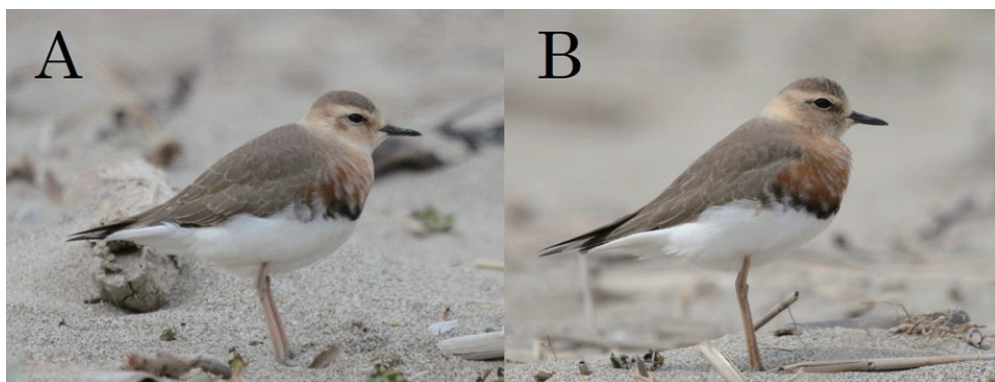


図 1. 鳥取県鳥取市で観察されたオオチドリ 2 個体. (2022 年 3 月 28 日 小西広視撮影). A) 比較的胸の橙色と黒色の帯が不明瞭で、顔が白い個体. B) 比較的胸の帯が明瞭で、顔が暗色の個体.

Fig. 1. Two Oriental Plovers observed in Tottori City, Tottori Prefecture (photographed by Hiromi Konishi on March 28, 2022). A) One has relatively indistinct orange and black bands on the breast and a white face. B) The other has relatively distinct bands on the breast and a dark face.



図 2. 鳥取県鳥取市で観察された、ハマシギ（左右）と休息するオオチドリ（中央）. (2022 年 3 月 28 日 市原晨太郎撮影).

Fig. 2. An Oriental Plover resting between two Dunlins (photographed by Shintaro Ichihara on March 28, 2022)

黒色だった。脚は灰色がかった黄色だった。2個体は、顔の模様や胸の赤褐色および黒色の帯の出方に違いがあり、区別可能だった（図 1）。

当該2個体は、10 m 前後の距離を保ちつつ、基本的に行動を共にしていた。発見時には波打ち際から 15 m ほど内陸の砂浜に漂着した流木やゴミの間で休息していた（図 2）。その後、砂地を歩いては立ち止まり、嘴を砂に刺して採餌する様子も観察された。シロチドリ2個体、ハマシギ3個体が周辺で休息および歩き回って採餌していた。同日 12 時 30 分に再度観察した際には、発見時よりも東側に 200 m ほど移動していた。その後、翌 3 月 29 日にも2個体が発見場所周辺で確認され、砂地に座り込んで休息する様子や、コガネムシ類の幼虫を捕食する様子が観察された。

2)

2022 年 3 月 29 日 17 時 19 分、鳥取県米子市河崎（35° 28'08.7"N 133° 18'51.1"E 付近）の砂浜海岸で、当該1個体を高石敦、高石由紀子の両氏が発見した。その後、翌 3 月 30 日（観

察者：高石敦、桐原佳介、三原菜美）および 3 月 31 日（観察者：高石敦）にも発見場所周辺で1個体が観察された。

観察されたのは、境港市から日野川河口まで、東西約 13km に及ぶ弓ヶ浜海岸の一部である。海岸線から内陸側に 20 ~ 50m ほど砂浜が広がり、さらに内陸側にはイネ科草本がまばらに生えていた。さらに内陸にはハマゴウ *Vitex rotundifolia* やクロマツ *Pinus thunbergii* などの疎林が広がっていた。

米子市で観察された個体の体形や嘴、脚の形態は鳥取市の2個体と同様だった（図 3A）。頭部はバフ色で、頭頂は灰褐色だった。眉斑は不明瞭で目の直径よりも細く、バフ色で目の後方で途切れていた（図 3A）。喉から胸にかけてはより白っぽい灰褐色だった。後頸から上背、肩羽、小雨覆、中雨覆、大雨覆、三列風切は灰褐色で、バフ色がかった褐色の羽縁のある羽と、より摩耗して羽縁の色が淡い旧羽と思われる羽が混在していた（図 3A）。静止時に初列風切の先端は尾羽よりも突出していた。腹部は白色だった（図 3A）。

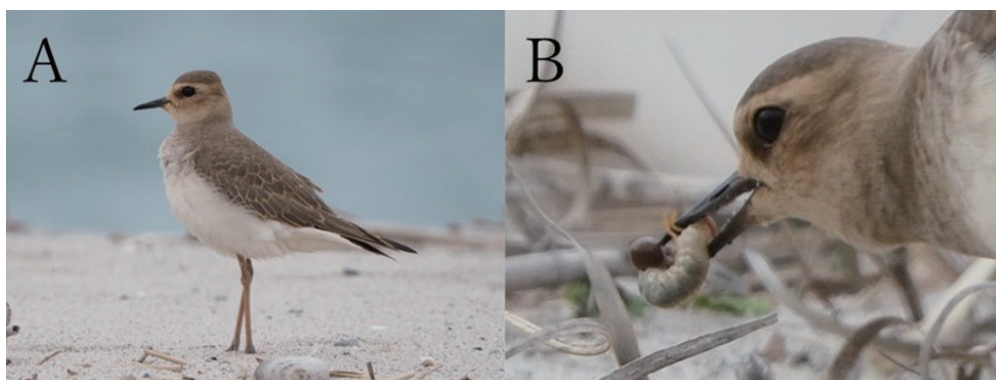


図 3. 鳥取県米子市で観察されたオオチドリ。（2022 年 3 月 30 日 桐原佳介撮影）。A) 全身, B) コガネムシ類の幼虫を捕食する様子。

Fig. 3. An Oriental Plover observed in Yonago City, Tottori Prefecture. (photographed by Keisuke Kiriha on March 30, 2022). A) Whole view. B) The bird was preying on a beetle larva .

発見時には、波打ち際から約 30 m 内陸のまばらに草の生えた砂地で休息していた。発見日の翌日の 3 月 30 日には、波打ち際から約 20 m 内陸の同様の環境で休息し、時々歩き回っては立ち止まり、地面をつついて採餌していた。コガネムシ類の幼虫を捕食しているのが確認できた（図 3B）。翌 3 月 31 日にも、同様に休息や採餌が観察された。

考察

ユーラシア大陸で繁殖し、日本で記録される可能性のあるチドリ科の鳥類で、胸に橙色の帯とその下に黒色の帯があるのはニシオオチドリ *C. asiaticus* とオオチドリの 2 種の雄の生殖羽である（Hayman *et al.* 1986）。このうち、先述の鳥取市で観察された 2 個体の形態的特徴が合致するのはオオチドリである。ニシオオチドリは脚と首がより短く、脚と背面がより暗色で、体サイズがより小さくハマシギとほぼ同大であり（Hayman *et al.* 1986）、当該 2 個体と異なるため、この 2 個体をオオチドリと同定した。本種は生後約 20 ヶ月で初めて成鳥生殖羽に換羽し（Hardy 2019）、胸に橙色とそのすぐ下に黒色の明瞭な帯が見られるのは雄成鳥の生殖羽である（Hardy 2019, Hayman *et al.* 1986, Prater *et al.* 1977）ため、当該 2 個体は 2 年目以上の雄成鳥であると考えられた。2 個体とも、肩羽や雨覆に少なくとも 2 世代の羽が混在し、胸の帯を形成する橙色や黒色の体羽が一様ではなかったため、非生殖羽から生殖羽に移行中であると考えられた。なお、本稿での年齢表記は Hardy（2019）に従った。

多くのチドリ科の非生殖羽または幼羽では、米子市で観察された個体のように黒い過眼線がなく、上面が灰褐色で下面が白色である。日本で観察される可能性のある、そのような種のうち、米子市で観察された個体のように脚や

首が本個体のように長くすらりとした体形であるのは、ケリ *Vanellus cinereus*、ニシオオチドリ、オオチドリ、コバシチドリ *C. morinellus* の 4 種である（Hayman *et al.* 1986）。ケリは嘴が先端を除き黄色いことや頭部の灰色味が強く眉斑がないことなどが、コバシチドリは頭部に対して嘴がより短いことや眉斑が後頸まで延びること、脚がより短いことなどがそれぞれ本個体と異なる。また、ニシオオチドリは脚がより暗色で短く、背面もより暗色で、眉斑がより明瞭であり（Hayman *et al.* 1986）、本個体と異なる。よって本個体もオオチドリと同定した。オオメダイチドリ *C. leschenaultia* やメダイチドリ *C. mongolus* もオオチドリにやや似るが、両種ともよりコンパクトな体形で胸に灰褐色の帯があり（Hayman *et al.* 1986）、喉は白い（真木ら 2014）ため異なる。本個体には、鳥取市の個体で見られたような胸の帯はなく、1 年目の未成鳥または雌成鳥である（Hardy 2019）。肩羽や背には顕著なバフ色の羽縁があり、雨覆には摩耗の進んだ幼羽が見られた。これらは未成鳥の特徴であり（Hayman *et al.* 1986）、本個体は 1 年目の未成鳥である可能性が高いと考えられた。

本種の春の渡りでは、3 月から 4 月にかけて先島諸島などを通過し（真木ら 2014）、今回観察された時期と合致する。また、2022 年 3 月 26 日から 3 月 27 日にかけては、日本列島周辺を低気圧が西から東に通過し、全国的に荒れた天候となった（気象庁 2022a）。鳥取県でも 3 月 26 日には強い南よりの風が吹いた（気象庁 2022b）。したがって、この日に低気圧から西方に延びた寒冷前線によって、台湾や南西諸島から大陸へ向かう本種の春の渡りの本来のコースが塞がれ、前線の南側を吹く強い南西よりの風によって渡りのコースが例年よりも大きく東にずれた可能性が考えられる。実際、2022

表 1. 九州以北の日本列島における, 2022 年 3 月 26 日から 1 週間以内のオオチドリの観察例.

Table 1. Observation records of Oriental Plovers from Japan northward of Kyushu within a week after March 26, 2022.

No.	記録月日	道県名	地名	個体数	出典
1	3.26	鹿児島県	出水市東干拓	1	所崎 聡 私信
2	3.26-30	鹿児島県	出水市福ノ江	5	所崎 聡 私信
3	4.1-2	鹿児島県	加世田市	1	加藤銀次 私信
4	3.31	宮崎県		4	https://www.nekoton.com/entry/2022/03/31/000000 (2022年7月12日閲覧)
5	3.28	長崎県	五島市野々切	7	https://blog.goo.ne.jp/fukueyatohati/e/373492c62863d9cce5938ac867d447da (2023年1月14日閲覧)
6	3.27-31	島根県	出雲市斐伊川河口	3	日本野鳥の会島根県支部 (2022a) 日本野鳥の会島根県支部 (2022b)
7	3.28-4.1	鳥取県	鳥取市浜坂	2 (3.28-3.29) 1 (3.30, 4.1)	本報告
8	3.29-31	鳥取県	米子市河崎	1	本報告
9	3.28-4.1	石川県	金沢市金石海原	3 (3.28-3.30) 1 (3.31-4.1)	富沢直浩 私信
10	3.27	新潟県	長岡市寺泊港	1	久野太熙 私信
11	3.27	秋田県	男鹿市船川	2	遠藤英之 私信

表 2. 島根県および山口県におけるオオチドリの記録.

Table2. Records of Oriental Plovers in Shimane and Yamaguchi Prefectures.

No.	記録年月日	県名	地名	個体数	写真	文献
1	1971.9	島根県	出雲市大社海岸	1		a
2	1973.9	〃	安来市飯梨川河口	1		a, b
3	1996.3.25	〃	益田市益田川河口	9	有	c
4	1998.5.2	〃	益田市高津川河口	1		d
5	1999.4.27	〃	益田市中須町	1		e
6	2005.4.16	山口県	防府市台道干拓	2	有	f
7	2006.4.19	〃	萩市見島観音崎	1	有	f
8	2010.3.4	〃	下関市豊北町角島	1	有	f
9	2010.3.11	〃	〃	1	有	f
10	2010.3.12	〃	〃	1	有	f
11	2010.4.18	〃	山陽小野田市東糸根	5	有	f
12	2010.4.18	〃	山陽小野田市埴生	2	有	f
13	2011.9.30	〃	山陽小野田市高泊干拓	1	有	f
14	2012.3.31	〃	山口市秋穂二島	1	有	f
15	2013.3.23	島根県	出雲市斐伊川河口	1		g
16	2020.4.28	〃	大田市長久町	1		h
17	2022.3.27	〃	出雲市斐伊川河口	3	有	i

文献の記号は以下の通り.

a: 木幡 (1994), b: 根岸 (1978), c: 日本野鳥の会島根県支部 (1997), d: 日本野鳥の会島根県支部 (1998), e: 日本野鳥の会島根県支部 (1999), f: 日本野鳥の会山口県支部 (2017), g: 日本野鳥の会島根県支部 (2013), h: 日本野鳥の会島根県支部 (2020) i: 日本野鳥の会島根県支部 (2022b).

年3月26日以降、鹿児島県や島根県、石川県、秋田県など南西諸島以外の他地域でも本種が相次いで観察された情報が得られた(表1)。このような現象の中で、渡り途中の個体が鳥取県内にも相次いで降り立ったと推察される。

なお、島根県や山口県では過去に本種が何度も記録されており、それらを表2にまとめる。本種はしばしば山陰地方を通過する種であるが、鳥取県における記録は今回が初と考えられた。

謝辞

本稿の執筆にあたり、小西広視氏には同定に関して助言いただき、写真の利用を許可していただいた。高石敦氏には米子市での発見情報および観察記録を提供いただいた。遠藤英之氏、加藤銀次氏、久野太熙氏、所崎聡氏、富沢直浩氏には各地の観察記録を提供いただき、ホシザキ野生生物研究所の森茂晃氏からは島根県での記録についてご教示いただいた。黒田治男氏と安食一步氏には文献をご教授いただいた。また、編集委員の方と匿名の2名の査読者から有意義な助言をいただいた。この場を借りて厚く感謝申し上げる。

引用文献

- Clements JF, Schulenberg TS, Iliff MJ, Billerman SM, Fredericks TA, Gerbracht JA, Lepage D, Sullivan BL, & Wood CL. 2021. The eBird/Clements checklist of birds of the world: v2021. (online) <<https://www.birds.cornell.edu/clementschecklist/download>>. accessed on 2 September 2022.
- Gill, F. Donsker, D. & Rasmussen, P. (Eds). 2022. IOC World Bird List (v 12.1). (online) Doi 10.14344/IOC.ML.12.1., accessed on 27 May 2022
- Hardy JW. 2019. Oriental Plover. In: Australian Bird Study Association Inc. Bird in the Hand (Second Edition). (online) <<https://absa.asn.au/bird-in-the-hand-2nd-edition/>>. accessed on 1 April 2022.
- Hayman P, Marchant J & Prater T. 1986. Shorebirds: an identification guide to the waders of the world. Christopher Helm. Pp25, 82-83, 108-113, 273, 299-302, 309. London.
- 木幡修介. 1994. しまねの野鳥Ⅱ: 114. 山陰中央新報社, 松江.
- 気象庁. 2022a. 過去の天気図 日々の天気図 令和4年(2022年)3月.(オンライン)<<https://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/hibiten/index.html>>. 参照 2022年9月2日.
- 気象庁. 2022b. 過去の気象データ検索 日ごとの値 鳥取2022年3月.(オンライン)<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/daily_s1.php?prec_no=69&block_no=47746&year=2022&month=3&day=26&view=>>. 参照2022年9月2日.
- 真木広造・大西敏一・五百澤日丸. 2014. 決定版日本の野鳥650. p.234. 平凡社, 東京.
- 根岸啓二. 1978. 島根県鳥類目録: 35. 日本鳥学会. 2012. 日本鳥類目録, 改訂第7版. pp.121-122. 日本鳥学会, 三田.
- 日本野鳥の会山口県支部. 2017. 山口野鳥 47: 79, 102-104.
- 日本野鳥の会島根県支部. 1997. しまねの鳥. pp.91, 171. 島根県農林水産部森林整備課, 松江.
- 日本野鳥の会島根県支部. 1998. スペキュラム 64: 10.
- 日本野鳥の会島根県支部. 1999. スペキュラム 70: 9.
- 日本野鳥の会島根県支部. 2013. スペキュラム 154: 5.
- 日本野鳥の会島根県支部. 2020. スペキュラム 197: 18.
- 日本野鳥の会島根県支部. 2022a. スペキュラム 207: 1.
- 日本野鳥の会島根県支部. 2022b. スペキュラム 208: 23.
- 日本野鳥の会鳥取県支部. 2014. 鳥取県鳥類目録. 日本野鳥の会鳥取県支部, 米子.
- Prater AJ, Marchant JH & Vuorinen J. 1977. Guide to the Identification and Ageing of Holarctic Waders. British Trust for Ornithology. pp.62-63. Norrköping.

The first records of the Oriental Plover *Charadrius veredus*
in Tottori Prefecture, western Japan

Shintaro Ichihara^{1,*} & Keisuke Kirihara²

1. Tottori University of Environmental Studies, Wakabadai-kita 1-1-1, Tottori, 689-1111 Japan

2. Nakaumi International Exchange Fund Foundation, Yonago Waterbird Sanctuary,
Hikonashinden 665, Yonago, 683-0855 Japan

We observed three Oriental Plovers *Charadrius veredus* in Tottori and Yonago Cities, Tottori Prefecture, western Japan in March 2022. These are the first records of this species in Tottori Prefecture.

Keywords: Oriental Plover, Charadrius veredus, Tottori Prefecture

*: sichihara512@gmail.com

